コージェネ大賞 2026
（第 15 回）

応募要領

2026 年 7 月 1 日

一般財団法人コージェネレーション・エネルギー高度利用センター

コージェネ財団

１．本表彰制度の目的

コージェネレーションシステム（以下、コージェネという。）について、従来からの省エネルギー性や省 CO_2 性に加えて「電源としての位置付け」「防災性、電源セキュリティ性」「再生可能エネルギーの調整電源」等の期待が高まっています。その中で、新規性・先導性・新規技術および省エネルギー性等において優れたコージェネを表彰することにより、コージェネの社会的認知を図るとともに、より優れたコージェネの普及促進につなげることを目的としています。

２．応募対象と応募区分

（１）応募対象

コージェネを設置や更新、または技術開発に携わる個人、グループ、法人（会社、団体）および地方公共団体等とします。設置者、技術開発者の他にコージェネの設計、製作、施工、運転等に携わった者を加えた連名による応募も可能とします。ただし、共同申請者は 3 者以内を基本とします。なお、他の団体によって既に表彰されているもの、他団体の賞との重複応募も可能とします。海外からの応募も可能とします。

（２）応募区分

該当する区分を選択して応募下さい。

部門	カテゴリー
1)民生用部門	①新設
	②増設、更新または改善事例
2)産業用部門	①新設
	②増設、更新または改善事例
3)技術開発部門	

【部門詳細】

・民生用部門　：業務用施設（事務所、商業施設、宿泊施設、医療施設、教育施設、地域冷暖房施設等）、家庭用におけるコージェネの導入事例を対象とします。

・産業用部門　：産業用施設（工場等）におけるコージェネの導入事例を対象とします。

・技術開発部門：コージェネに係わる機器の技術開発（原動機、排熱利用機器等）、システム技術開発（エネルギーマネジメントシステム：ＥＭＳ、ＩＣＴシステム等）、先進的なビジネスモデルを対象とします。

【カテゴリー詳細】

・新設：コージェネを導入していない事業所へコージェネを新たに設置しているものを対象とします。また、単独事業所へのコージェネ導入だけではなく、複数施設に跨るものも対象とします。（スマートネットワーク、自己託送、熱融通等）

・増設、更新または改善事例：

コージェネを導入している事業所への増設または、既設コージェネの改造・運用改善等（排熱利用設備含む）や更新による、省エネルギー性の向上、防災性の向上、節電への貢献等を対象とします。

３．応募条件

（１）全部門共通

過去に日本コージェネレーションセンターの「日本コージェネレーションセンター賞」または、「コージェネ大賞」で表彰されていないもの。

（過去に応募したものでも受賞していない案件の再応募は可能）

（２）民生用部門、産業用部門

応募時点で運転実績があり、一次エネルギー削減※に貢献していること。

※応募申請書に記載する一次エネルギー削減について、直近 1 年間の運転実績または、直近 1 ヶ月以上の運転実績と 1 年間の計画値を記載してください。

（３）技術開発部門

応募時点で商品化済、あるいは研究開発済で商品化の見込み※があること。

※大学・研究機関と企業が共同研究し商品化の見込みがあるものも応募対象です。

４．応募方法、応募期間

・当財団 HP からの応募となります。(使用言語は日本語に限ります。)

・コージェネ大賞応募画面で、様式 1-1 の内容を入力してください。
（応募期間中は何度でも変更可能）

・様式 1-1 の内容入力後、応募申請書を作成するページのアドレス、ID、パスワードが応募代表者にメールで送信されます。

・ID 等を入力のうえ、応募申請書を HP 上で入力し、審査申請を行ってください。
（応募期間中は何度でも変更可能）

・申請費用は無料です。

【当財団 HP】　https://www.ace.or.jp

【申請書類】　応募概要・連絡先、応募要件確認書、応募申請書の 3 種類

書類	様式	部門	カテゴリー
応募概要・連絡先	様式 1	全ての部門	全てのカテゴリー
応募要件確認書	様式 2	全ての部門	全てのカテゴリー
応募申請書	様式 3	民生用部門・産業用部門	新設
	様式 4	民生用部門・産業用部門	増設、更新または改善事例
	様式 5	技術開発部門	

【応募期間】　2026 年 7 月 1 日(水)～8 月 31 日(月)

５．問合せ先

一般財団法人　コージェネレーション・エネルギー高度利用センター
コージェネ大賞事務局
TEL　03-3500-1612　FAX　03-3500-1613
メール：award@co-gene.net

６．審査

（１）審査の方法

当財団内に学識経験者などで構成する「選考会議」および学識経験者と当財団の会員企業で構成する「作業部会」を設置し、以下（２）に示す評価項目に従って総合評価のうえ、厳正に審査を行います。

なお、審査にあたり、必要に応じて書類提出依頼・ヒアリング・現地確認を行うことがあります。

（２）評価項目

①民生用部門、産業用部門

評価項目
新しい取組みおよび普及展開に役立つ工夫（新規性・先導性）
平常時の優れた特性（面的利用等のスマート性・再エネとの協調等の電力系統への貢献等）
非常時の優れた特性（防災性・電源セキュリティ・スマート性等）
省エネ性（一次エネルギー削減率）
その他特筆すべき事項

※ 評価項目の説明と例示は、次頁に記載しています。

②技術開発部門

評価項目
技術又はビジネスモデル開発の目的（着眼点等）
開発のプロセス（困難度・ハードルの高さ等）
新規性・独創性
市場性・将来性
その他特筆すべき事項※

※ その他特筆すべき事項は、加点要素として評価します。

評価項目	説明と例示
新しい取組みおよび普及展開に役立つ工夫 （新規性・先導性）	【説明】 従来事例とは異なる点、他への波及が期待できる点（資金調達など事業スキームの工夫も含む）を中心に記載して下さい。コージェネ単独は勿論、コージェネと他との組み合わせでも構いません。 【例示】 ・導入しにくい業種（熱電比が小さい業種）や導入しにくい地域（燃料配管未整備等）での導入の工夫点 ・ESCO やエネルギーサービスを活用し、設備計画・メンテナンスを委託するなど導入のハードルを下げる工夫 ・自治体等と連携やエネマネ事業者と連携し、効果的に補助金を活用(補助率向上)することで資金調達の工夫 ・複数事業者が取組む時の合意形成の工夫点 ・中小事業者の取組みなど、同規模事業者が導入の参考となる工夫点 ・新しいビジネスモデル（新しいエネルギー制度への対応等）や新技術の普及展開に関する工夫点
平常時の優れた特性 （面的利用等のスマート性･再エネとの協調等の電力系統への貢献等）	【説明】 コージェネを含む電力・熱の融通等によるエネルギーの高効率利用の有無、取組みの多様性等を記載して下さい。ハードだけでなく、運用面等での取組み等幅広く記載いただいても結構です。 コージェネによる電力系統への貢献に対する取組みについても評価します。 【例示】 ・エネルギーの面的利用 ・電力ピークカットや調整力等の活用 ・再生可能エネルギー（太陽光、太陽熱等）との協調（上げ DR、下げ DR） ・熱の有効利用（熱のカスケード利用、低温廃熱の活用、下水熱など未利用熱の利用など） ・水素や合成燃料(e-methane など）の活用 ・EMS(エネルギーマネジメントシステム）などの導入による見える化、省エネルギー性向上への取組み ・省エネ・環境性の向上やコスト低減の運用面での取組み（省エネ推進会議などの定期的な運営会議など）
非常時の優れた特性 （防災性・電源セキュリティ・スマート性等）	【説明】 災害等の非常時に対する事業活動の考え方、効果的に対応できる設備仕様や工夫、運用の取組み、新規技術の採用等について評価します。 【例示】 非常時の防災拠点や事業活動継続による社会的貢献、非常時の設備運用方法、燃料供給やユーティリティの確保等。 ①早期給電（ブラックアウトスタート、無負荷運転待機、負荷生残り運転、復電機能、非常用発電機との並列運転等） ②早期給熱（蓄熱槽（蒸気、温水、冷水）の設置等） ③冷却水確保（ラジエータ冷却方式、貯水槽設置等） ④燃料確保（中圧ガス配管、備蓄燃料の確保、燃料の多重化等） ⑤吸入空気確保（エアフィルターの強化等） ⑥設置条件（屋上設置、地下設置で排水設備の強化等）

省エネ性 （一次エネルギー削減率）	【説明】 一次エネルギー削減率にて評価します。
その他特筆すべき事項	【説明】 その他特筆すべき事項は、加点要素として評価します。 【例示】 ・コージェネの有益性の外部への発信、地域と一体となった取組み等 ・政策上・社会的意義（CN・SDGs への貢献） ・ブランド価値向上に資するもの。 ・将来の拡張性（実現可能な範囲で） ・知財・文献投稿など ・受賞歴

（３）審査結果の発表等

①審査結果の発表：2026 年 12 月上旬（予定）

②当財団のホームページならびに外部報道機関等の媒体を通じて発表します。

なお、応募申請者には当財団より個別に通知します。

７．表彰

審査により優れていると認められる応募に対して、部門毎に以下に記載する表彰種別で表彰します。

（１）表彰種別と表彰件数

・理事長賞　：各評価項目を通じて総合的に最も優れた案件
・優 秀 賞　：各評価項目を通じて総合的に優れた案件
・特 別 賞　：評価項目のいずれかにおいて優れた案件（省エネ性、新規性、BCP など）
・入　　賞　：事前に定めた一定水準を満たしている案件（技術開発部門を除く）

① 民生用部門、産業用部門（部門毎）

理事長賞	優秀賞		特別賞	入賞※
	新設	増設、更新 または改善事例		
1 件	2 件	1 件	2 件	―

※サイトの需要に見合った規模のコージェネを導入し稼働させ、コージェネに期待される省エネの役割を発揮できている案件は、入賞として表彰します。

② 技術開発部門

理事長賞	優秀賞	特別賞
1 件	1 件	2 件

上表の表彰件数は目安であり、該当なしの場合も有ります。

（２）表彰式

2027 年 2 月 4 日（木）開催の当財団主催のシンポジウム(開催場所：東京都内)にて実施する予定です。

８．コージェネ大賞ロゴマーク

受賞された団体、企業の皆様におかれましては、受賞された機器、導入事例の一般への PR 等のため、コージェネ大賞のロゴマークを無償で提供します。ロゴ使用マニュアルに従ってご利用ください。



ロゴ使用マニュアル：
https://www.ace.or.jp/web/gp/pdf/Manual_Co-gene_GP_Logo.pdf

９．広報

（１）理事長賞受賞案件については、2027 年 2 月 4 日（木）開催の当財団主催のシンポジウムにて事例発表をしていただく予定です。また、一般誌等へ掲載予定ですので、取材等にご協力をお願いします。

（２）受賞案件については、当財団のホームページ等への掲載、外部報道機関の媒体を通じて広報します。なお、受賞案件発表時、受賞案件の応募概要を公開させていただきます。

（３）受賞案件については、イベントでの事例紹介や技術紹介、当財団発行の「コージェネ大賞　優秀事例集」に掲載します。原稿の執筆等にご協力をお願いします。

（４）応募案件のうち、受賞されなかった案件を「コージェネ優良事例集」として発行させていただくことがあります。その際は原稿の執筆等にご協力をお願いします。

（５）民生用部門・産業用部門の運転実績等の元データについては厳正に取扱うものとし、応募申請者の同意なく公表しません。

１０．その他留意事項

本表彰制度の目的を損なうような行為もしくは虚偽の記載等があった場合は、その応募を無効といたします。なお、審査内容、審査経過、審査結果に関する問合せおよび異議の申し立て等はお受けしません。

以　上

応募要領書別紙　評価の視点（参考）

5W1H の視点

大項目	中項目	応募申請書 関連番号
年度	❑応募時の年度を基準とする。 ❑過去の案件においても審査時点で他への波及効果(新規性・先導性)が期待できるか等の評価を行う。一方で、長期間運用している案件では、長期運用を行うための工夫点などは評価の対象となる。 ❑将来の拡張性は、実現が見込める項目のみ評価対象とする。	1. 5. 9.
地域性	❑コージェネが導入しやすい/導入しにくい地域の取組み ❑コージェネが導入しやすい/導入しにくい業種の取組み ❑その他、地域性・業種を考慮した導入の工夫点等	5. 5.
仕様	❑コージェネレーションシステム全体 （経済性や防災面などからのシステム構成〔電源系統、熱系統など〕） ❑コージェネレーションシステムのエネルギー等の活用方法 例：非常時の防災拠点など、エネルギーの直接利用が明確であるもの ❑平常時の排熱利用（蒸気、高温水（約 90℃）、低温水(約 60℃)）の工夫 （「スマート性、面的利用」と関連） ❑非常時の仕様での工夫点（「防災性・電源セキュリティ性」と関連） 例：燃料供給(中圧導管、燃料多重化等)、冷却水確保（ラジエータ方式採用などで代替)、設置条件(津波対策を考慮し高所設置等)、燃焼用空気の確保(エアフィルタ強化等)、早期給熱（蓄熱タンク設置等)、早期給電	3.4. 3.4. 3.4. 3.4.
導入の背景	❑事業概要と導入背景を記載のうえ、導入した設備仕様の必要性や適正性などを評価	2.
スキーム（導入者）	❑設備導入者を明確にし、導入時の工夫点 例：事業者単独導入の工夫あるいは ESCO、エネルギーサービス等を活用 ❑事業者の規模（大企業、中小企業、エネルギー指定管理工場等） ❑複数事業者の取組み（自治体と連携等）	5. 5. 5.
スキーム（資金面）	❑補助金活用、補助率向上の取組み等、資金調達のハードルを下げる取組み ❑ランニングコスト削減（メンテナンスコスト低減等）の取組み	5. 5.
運用	❑平常時の運用の取組み（「スマート性、面的利用」等と関連） ❑非常時の運用の取組み（「防災性・電源セキュリティ性」と関連）	6. 7.
その他	❑上記以外で評価できない項目でコージェネの寄与分を明確化できるもの 例：CASBEE「S」取得等にコージェネがどの程度寄与できるか等 ❑政策上・社会的意義（CN・SDGs への貢献）	9. 9.